

業務展望レポート			
8	井上 雄二	所属名	香南市教育委員会
		職名	指導主事

### 〔1〕研修参加の意義

情報化社会が進む中で、知りたいことのほとんどは指先一つで知ることができる。しかし本当のことや大切なことは、実際に自分で見て、聞いて、経験することでしか得ることはできないと思う。まず、私自身が行動することにより、実際に経験することの意義をこれからも子どもたちに伝えていきたいという思いが、本研修へ参加する動機となった。また、私自身が持っている固定観念や慣習もネパールへ訪問することで、違いがあることに気づき、その違いを認めることが、国際理解教育/開発教育を進めたり、人を思いやり暮らしていったりするうえで必要なことになると考えた。

そして、本研修に参加をし「知りたい」「知ろう」と思うことが、国際理解や他者理解につながり、それだけではなく、自国を尊び、自分自身を知ることにもなるということを体感することができた。さらには、ネパールで経験したことや出会った方々の言葉が今も心に残り、自分の生き方を改めて考えることができたとともに、研修前より視野の広がった自分が先生方や子どもたちへ国際理解や人とのつながりについて伝えられることが研修参加の意義である。

### 〔2〕海外研修全般に関する所感

トリブヴァン国際空港に降り立った時に感じた「見たことも聞いたこともない、そして経験したこともないことに出会えること」の期待感、「早く知りたい」と思う高揚感を覚えている。同時に、香南市の子どもたちや我が子は、学校へ向かう時、授業が始まる時、こういう気持ちになれているのだろうか、ふと思ったことである。

ネパールでは見るもの聞くもの匂うもの味わうものすべてが新鮮で、やはり文化や民族や言語などを知るためには、実際に触れること以上の学びはないように感じた。そして、たくさんの学びの中で、特に私にとって強く残ったことは次の3つである。

○豊かさや幸せは、自分の心が決めるものであり、他者や他国の者が、自分や自国の基準に合わせて説くものではないということを感じた。ただ、お互いを尊重し合いながら開発問題等の解決を目指すための取組は積極的に考え行動することは必要であると思う。さらには、NGO デスク西前さんの「国際理解は同情ではない」という言葉から、開発途上国を理解することの意味を深く学ぶことができた。

○JICA 職員や青年海外協力隊の方々は、自分の目的と役割を明確に持って懸命に、そして楽しく働いていた。特に児童労働削減の取組や、フェアトレード等による女性を守る取組をしているシャプラニール事務所の宮原さんの「私たちには意志がある」という強い言葉が心に残り、私はどんな意志を持って今の仕事をしているのかと自分を問うきっかけとなった。

○訪問した小学校や道端で出会った子どもたちは、とても純粋で素直であった。その時思ったのは、日本の子どもたちも同じで純粋で素直であるということであった。現在、香南市では子どもたちの「コミュニケーション能力」「規範意識」「自尊感情」の育成のため、0歳から15歳までの系統的な教育を進めているが、子どもを取り巻く環境により、子どもたちの成長は著しく変化することが課題としてあげられている。ネパールも日本も今後社会を形成していくのは、子どもたちであることを今一度認識し、子どもを中心にした教育を進めていく必要があると感じた。

今回の研修での学びは大きく、お世話になった方々に感謝の気持ちでいっぱいであるとともに、共に学び合った四国四県の参加者の方々と、今後もつながり合い、互いの県や市町村の教育を高めていきたいと考えている。



〈ネパールで出会った子どもたち〉

**[3]特に印象に残った視察・訪問先を3つ挙げ、その内容をご記入ください。**

視察・訪問先	所感
<p>シスドル廃棄物処理場</p> 	<p>環境問題は、ネパールにとって喫緊の課題であり、今後早急に対策をとる必要があると感じた。ただ環境問題は、世界の課題であり、日本人を含めて意識を変えていくことが大切であると考えます。その意識は、教育でしか変えられないものであると痛感したことであった。また、処理場の近くのリサイクル業者で働く少年、山奥の最終処分場の敷地内でテントを立て生活する子どもたちの姿を見て、子どもたちの学習できる場の保障は、その国の未来を決めるように感じ、私自身が小学校教諭として親としてすべきことがあるのではないかと考えさせられた。</p>
<p>パトレケット村</p> 	<p>1泊のホームステイであったが、大変貴重な体験をすることができた。お世話になったベニさん宅は、英語が通じる子どもがいない夫婦二人の生活で、すべてネパール語で過ごすことになった。しかし、言葉は上手く通じなくても、伝えたいという思いがあれば意外と分かり合えるもので、ジェスチャーも駆使しながら楽しいコミュニケーションをとることができた。 大変すばらしい景色の中、ゆっくりと時間は流れ、太陽の動きに合わせたその生活の流れがとても素敵に感じられた。</p>
<p>パシュパティナート</p> 	<p>ネパール最大のヒンドゥー教寺院であるパシュパティナートは、研修前から訪問してみたかった場所であった。葬儀で最後の別れを惜しむ親族の姿や火葬の煙が上がる川岸のガート(火葬場)を見ながら、ネパールの人々の信仰心や死生観を強く感じたことであった。 空を見上げると、とてもきれいな空で、静かに自分自身やこれからの行動を考えることができた。</p> 

**[4]今後の業務における活用の可能性**

本研修の目的である「開発途上国の現状や国際協力の現場、日本との関係に対する理解を深め、その成果を次代を担う児童・生徒の教育に役立てる」ということを今の自分の立場で何ができるのか考え実践をしていきたい。

さらに何より本研修を終え、自分自身が国際社会に目を向け出し、今まであまり気にしていなかった世界情勢や様々な国際的な活動が自分の中に入ってくるようになった。開発教育の実践の基本は、「知り、考え、変わり、行動すること」とあるが、今回の貴重な経験をすることで、私がまず前の自分とは変わったことが成果であり、今後は私自身の可能性を広げて行動をしていきたい。

**【具体的な活用】**

- 9月～10月12日 ネパール研修ビデオ映像の編集・研修参加者へ教材として配付
- 10月7日(月)課内会(学校教育課)で報告
- 10月8日(火)10月香南市所属長会(保幼小中所属長・委員会事務局)にて報告会実施
  - ・ネパールについて(教育の現状等)
  - ・教材紹介(社会科・総合的な学習の時間等での活用)
- 12月17日(火)高知県東部教育事務所管内指導事務担当者会にて報告

(今後の予定)

- 各校への教材提供
- 各校の国際理解教育/開発教育の授業協力等



〈指導事務担当者会にて報告〉